

2025年2月16日(日)実施 「社会の温度をアゲるシンポジウム」 質問・感想

アンケート用紙への記入、後から送られてきたメールなど、計20人の方より質問・感想をいただきました。下記は、それを整理したものです。

■質問：

・パネラーそれぞれが紹介された本、全部、作者、タイトル、出版社をもう一度しっかり教えてください。

⇒ [「社会の温度をアゲるシンポジウム」レポート | 市民連合ふくおかBlog](#) に掲載しています。

・出水共同代表に質問します。

1) 日本は最も借金が多いとの説明でしたが、資産もたくさんあることについてどう思われますか？

2) 消費税の増税分は、法人税減税と富裕層の所得税減税に回されたという税の専門家の分析がありますが、どう思われますか？

3) 法人税を30年前の税率に戻す、大企業に対する優遇措置をやめる、住民税を累進課税にするなどで58兆円以上の財源が生まれ、消費税を廃止することができるという、税の専門家の試算がありますが、どう思われますか？

4) 故森永卓郎氏が著書にもされている「ザイム真理教」の弊害についてどのように思われますか？学生にも森永氏を読むようご指導をお願いします。

⇒別紙に回答をまとめています。

・日本の多大なる借金？、赤字？の解消のために、有効な政策はなんのでしょうか？ 軍事費削減などは是非実施していききたいことですが、消費税削減は不可能かと考えています。皆さん、消費増税を嫌がりますが、消費税を欧なみに上げることは必要だと思うのですが。

・収入が増えないとのことですが、軍事費・原発費を教育・福祉に使えばよいのと思います。

・経済的貧困・時間的貧困への考慮深めるべき方法は？

・被選挙権を18歳に引き下げると、若い人に選挙・政治が身近になると思います。若い人が進路の一つとして選択できます。

⇒市民連合ふくおかの会議などで議論させて頂ければと思います。

・宗像では今、子ども大学の特設講座として、3/25に「航空自衛隊築城基地」に「戦闘機」を「さわって」体験するというツアーが組まれている。(教育委員会主催)戦争の足音は迫っています。これについて意見をよろしくをお願いします。

⇒情報共有させて頂きました。

・大井さんへ：福岡でのbookclub活動をしている団体など教えていただければと思います。

⇒別紙に回答をまとめています。

・三苦さんへ：「投票率が上がると兵庫県のように」と悪い例として「兵庫県」が出てきたと感じましたが、いかがでしょうか？ 私は、クーデタ(利権政治)で斎藤知事が被害者だと思います。

⇒別紙に回答をまとめています。

・あやめさんへ：誰に投票すればよいか分かりません。国民民主党の政策は分かりやすいことで支持を得られたのでは？ 「勝つ」「負ける」は国民に関係ないのです。

⇒別紙に回答をまとめています。

・飯塚市で町の政治をみつめる会に所属しています。投票率をあげることを一つの大きな課題として考案中です。
⇒また、意見交換をさせてください。

■感想：

- ・時間的貧困という言葉が刺さりました。「考えない」という奴隷状態を脱しないと。
- ・軍事費増やむなしの風潮。生活を守るためにも侵略されても武器使わぬ戦い。前も（判別不能）も外交。最前線は老人が身をさらす。ボランティア募集。思い切った9条を活かす活動をどう考えるか？
- ・参加してよかった。来週はじめてスタンディングデモ募金活動を企画しています。投票には毎回行ってますが、投票だけじゃない参加のしかたを考えています。
- ・投票率が下がった原因として、選挙制度が小選挙区制になり、死票が増え、多くの声が切り捨てられてきたからだ。民主主義の崩壊で、中選挙区又は比例代表制にしていくべきだと思います。
- ・よくいろいろと工夫されていた映像。消費税に絞って攻めてください。立憲の All for All の考え方、増税のしかたを訂正してほしい。隣国の日常から市民の考え、行動等をひんぱんに我が国に放映することが大切。自分で考える。そのためには必要な Data をしっかり正確に与えるようにする。きまりについて考えさせねばならない。チラシにも確かな Data を1個2個載せる。「子供要求集会」をさせてみる。
- ・大変よくまとまったわかりやすいシンポジウムだったと思います。しかし、仲々結論を得られない課題ばかりだと思います。ねばり強く活動を続けるしかないと思います。
- ・御三人のパネリストの方々からは、様々示唆に富む意見を聞かせていただくことができました。
- ・共感するお話ばかりでした。出水先生が紹介して下さった本を読んでみようと思いました。出水先生のお話には、自分の思い込みや錯覚に気付かせてくださるものがあつたので、また、お話を伺ってみたいと思いました。
- ・シンポジウムは、根本から問い直し、本音で話そうという姿勢が貫かれていて、新しい一歩だと思います。総会にも、そのスピリットが貫かれていたのが嬉しい。市民連合ふくおかは一つの実験場だと考えます。
- ・聞いて学んだだけで、為になりました。政治には参画しています。党员で新聞配りもしています。誰に言われたわけではなく、自ら動いて考えて、運動もしています。うちの党に問題あるとは思いますが。中央に県に共闘してほしいと伝えています。思惑、惑いがあり実現できないのでしょうかね。初参加しましたが、面白い会でした。政党や政治家に意見し続けます。
- ・世界で声をあげているのは、韓国もそうだし、トランプ支援者も若者。FFF のグレッタさんもそう。日本で声をあげているのは、今日の集会の顔ぶれをみても、みなん老人。辺野古の座り込みも、石木ダム座り込みも。でも、日本では、大井さんのが話されたように、若い頃に声をあげた人たちが残っているだけ。つまり、日本では、次世代に受け継ぐとか、若い人に譲るといったことをしていない。
- ・国民に正しい情報が提供されていない。「国は投票率を上げたくない」について、私もそう感じる。それら気付いていない方へ、それを伝える必要があると思う。れいわのおしゃべり会のような、誰でも参加できる会がほしい。
- ・現在 14 時 48 分ですが、今のところ、日頃の路上活動に役立つ御意見がほとんどありませんでした。パネラーの皆さんこそ、路上に出て市民と共に話し合ってください。ホール内で話すのではなく、街に出て話してください。会場参加者は、おそらく地元での活動家が多いはずだと思いますので、もっと会場全体でディスカッションにすべきではなかったのでは？ パネリストのお話だけでは、持ち帰る物があまりに少なすぎます。

(メール1通、匿名「市民」で届きました)

この前、社会の温度をアゲるシンポジウムに参加しました。

市民連合ふくおかのイベントに初めて参加した市民ですが、率直に感想を述べます。

あやめさん、大井さんのお話からは、子育て世帯や中小企業の苦境、それでも理想を追い求める姿勢がよく伝わ

ってきました。

ありがとうございました。

…ただ、大学教授の話だけ、違和感だらけでした…。

「税額控除で消費税が入ってこないの、国と地方にはお金がない。納税は国民の義務。主権者たる国民は増税を受け入れるべき」って、何言ってるんだろう、この人…。

「地方にお金がないのは構造改革で意図的に交付金が減らされてきたから」、「消費税収が法人税減税の穴埋めになっている、輸出戻し税の面がある」など様々な問題点への言及もありませんでしたが、

立憲主義的な議論とは、

「憲法は健康で文化的な最低限度の生活を保障している。だから、経済的に困窮している方々の生活費等から容赦なく徴税する消費税は憲法違反である」ではないでしょうか。

「今、国の財政が厳しいから」で始まるのは、立憲主義の議論ではなく、政府・財務省の論理です。

「不登校の子どもたち、崖っぷちの中小企業に必要な支援は何か」といった必要性から出発して、では財源をどこから調達するか、と考えるのが立憲主義です。

社会保障には「応能負担」（負担能力のあるものが負担する）という原則がありますので、必然的に財源は、富裕層の資産や大企業の巨額の内部留保から調達すべきということが導かれます。

「五公五民」と言われるほどの重税、一方で暮らしていけないほどの低年金。

教授は、現在の日本が「高負担、低福祉」であることが全くわかっていないのではないですか？

税収＝消費税という固定観念もひどいですね。

なぜ、この人が共同代表なのでしょう？

自公政権の「全世代型社会保障」と考えが似ています。

「政府は赤字になってはいけない」とも言っていましたよね。

誰が決めたんだ、そんなルール…。

国民が何百万人飢え死にしようが、財政黒字を達成せよという財務省の論理そのものですね。

教授の立場なら、高額療養費の上限額引き上げも OK になりますね。

「医療費亡国論」をはじめ「財政危機論」の行き着く先は、「カネのかかる高齢者や難病患者や障害者は早く死ね」であると警告しておきます。

教授の議論を聞いて、もし関係者が「いや～今回のシンポジウムは良かったなあ～」と言っている状況なら、れいわ新選組が野党共闘から離脱したのもわかる気がします。